

～東京近郊の小中学生 400 人に聞く～

【第3回】子どもの食生活の意識と実態調査

2005年、2011年との比較レポート

～安心して食べられるのは「家の食事」(97.8%)、「給食」(65.3%)、「外食」(33.3%)～
4人に3人がおはしを「正しく持っている」。11年前より2割増(58.0%→76.3%)
子どもから見て、“家事参加度”の高いお父さんは年々増加(17.7%→33.9%→39.6%)

I. 食生活に関する意識と実態

- ◆ **食事中は「家族と話をする」が9割弱(88.0%)**
一方で、「携帯電話で話す、メールをする」(1.8%→5.5%→2.3%)は減少に転じる
- ◆ **子どもが好きなメニューは、いつの時代も「ハンバーグ」と「カレー」**
- ◆ **「おかずとご飯を交互に食べる」という子どもが大多数(82.0%)**
11年間で「おかずとご飯を交互に食べる」(66.3%→78.0%→82.0%)が増加傾向
- ◆ **11年前調査に比べ“残すことがある”(48.3%→42.5%→39.5%)が減少傾向**
残すのは「もったいない」(67.8%)、「作ってくれた人に悪い」(59.8%)が過半数

II. “食育”に関する意識と実態

- ◆ **「好き嫌いをしない」(72.5%)「食卓に肘をつかない」(71.8%)**
しつけでは「食事中に電話やメールをしない」(34.0%→48.5%)の増加が目立つ
- ◆ **おはしを「正しく持っている」(58.0%→72.5%→76.3%)が増加**
特に男子(49.0%→75.0%→77.0%)が目立つが女子(67.0%→70.0%→75.5%)も伸長
- ◆ **「食器をならべる、料理を運ぶ」と「食事後の食器を運ぶ」は約7割**
11年前は5割前後だった料理や食器を運ぶ子どもは7割前後にまで増加
- ◆ **11年間で、“家事参加度”が「高い」(17.3%→33.9%→39.6%)父親が増加**
食べ物や食事のことを「何もしない」お父さんは約2割(21.2%)

III. “食の安全性”に関する意識と実態

- ◆ **食の安全に“関心がある”(51.5%→58.3%→60.5%)子どもは増加**
- ◆ **8割強(84.3%)の子どもが“安心して食べられない”と思うときがある**

IV. 学校生活における“食”と“農”に関する意識と実態

- ◆ **給食に地元の食べ物や材料が「出る」(47.5%)**
地元の食材が「出る」(28.6%→39.5%→47.5%)と給食における地産地消が増加傾向
- ◆ **学校でお米や野菜を育てたことが「ある」(84.5%)が大多数**
11年前に比べ「ある」(62.3%→76.8%→84.5%)が増加傾向
- ◆ **育ててみた感想は、「楽しい」(37.3%→57.7%→55.6%)が常にトップ**
「むずかしい」や「たいへん」は約半数、農作業の楽しさとたいへんさの両面を学ぶ

◇はじめに◇

農林中央金庫では、「世代をつなぐ食 その実態と意識」（2004年）から、各世代を対象に食に関する調査を継続して実施しています。本年は小・中学生を対象に、“食”に関する意識と実態を探ることを目的に調査を実施しました。調査にあたっては、同じく小・中学生を対象に実施した2005年「親から継ぐ『食』、育てる『食』」、2011年「第2回子どもの食生活の意識と実態」との比較検証も行い、この間の意識の変化を探っています。調査対象は、東京近郊の小学生の男女各100人、中学生の男女各100人の計400人、調査期間は2016年2月20日から3月4日までです。

◇調査結果まとめ◇

調査の結果、食事のしたくを手伝う子どもの増加、食べ残しの減少、おはしを正しく持てる子どもの増加など全体的に**子どもたちの食に対する意識が高まっている**ことがわかりました。また、子どもから見た**お父さんも、食事のしたくを手伝う割合が増加するなどの傾向**がみられます。

食事中にすることは、「家族と話をする」（88.0%）と「テレビを見る」（79.8%）を多数が挙げています。**「携帯電話で話す、メールをする」は中学生のみで、人数も5年前から半減（10.0%→4.5%）**しました。一緒に食べると楽しいのは、学年・性別・時代を問わず**「母親」（79.3%）で、「父親」（11年前76.8%→5年前54.8%→今回64.8%、以下同様）も増加傾向**です。**好きなメニューは1位「ハンバーグ」（74件）、2位「カレー」（50件）が不動の人気**を保っています。「**おかずとご飯を交互に食べる**」子どもは、**11年前の6割強から増加傾向（66.3%→78.0%→82.0%）**です。

食事のしつけでは、「好き嫌いをしない」（51.3%→66.3%→72.5%）と「食卓に肘をつかない」（43.0%→72.0%→71.8%）が増えており、**「食事中に電話やメールをしない」（18.8%→34.0%→48.5%）が増えたのも目を引きます。**

おはしを**「正しく持っている」（58.0%→72.5%→76.3%）子どもは、11年間で2割近く増加**しました。「**食器をならべる、料理を運ぶ」（72.3%）、「食事後の食器を運ぶ」（68.8%）も7割前後で、11年前の5割前後から増えています。**子どもからみて食事のことを**「何もしない」お父さんは約2割（21.2%）で、11年前より減少（33.3%→26.1%→21.2%）。**“家事参加度”が**「高い」（17.7%→33.9%→39.6%）お父さんが増えました。**

食の安全に“関心がある”（51.5%→58.3%→60.5%）子どもが増加しており、**安心して食べられるのは、「家の食事」（97.8%）、次いで「給食」（65.3%）で、8割強（84.3%）が“安心して食べられない”と思うときがある**と回答しています。

学校でお米や野菜を育てたことが「ある」（62.3%→76.8%→84.5%）が増えており、育ててみたいと「思う」（43.0%→45.2%→56.5%）も増えています。育ててみた感想は、**「楽しい」（37.3%→57.7%→55.6%）が常にトップ**ですが、「**むずかしい」（35.3%→43.0%→49.4%）や「たいへん」（32.1%→60.3%→50.6%）なども約半数**で、農作業の楽しさとたいへんさの両面を感じ取る貴重な体験になっていることが分かります。



以下は、調査内容のダイジェストです。詳細につきましては、過去の調査報告書も含め、当金庫のホームページ（<http://www.nochubank.or.jp/contribution/research.html>）に掲載の調査報告書をご参照ください。

I. 食生活に関する意識と実態

1. 家で食事の時にしていることは？

- ◆ 「家族と話をする」(88.0%)が9割弱、「テレビを見る」(79.8%)もほぼ8割
携帯やメールをするのは中学生のみ、人数は5年前調査から半減(10.0%→4.5%)

子どもたちに、家で食事の時に何をしているか聞いたところ、「家族と話をする」(88.0%)と「テレビを見る」(79.8%)の2つの答えが大多数を占めました。テレビを見ながらの食事は、かつては“マナー違反”との見解も少なくなかったと思われそうですが、過去調査と比較すると増加の傾向にあり、最近では食卓の風景としてすっかり一般化しているようです。

少数派ですが「音楽をきく」「だまって食べているだけ」(各5.0%)、「携帯電話で話す、メールをする」(2.3%)といった人がみられます。なお、「だまって食べているだけ」は、小学生(3.0%)より中学生(7.0%)に多いようです。また、「携帯電話で話す、メールをする」は小学生にはおらず、中学生(4.5%)だけで、5年前の中学生(10.0%)よりも減っています。

過去調査：「テレビを見る」は増加傾向にあるが、携帯やメールは一時より減少

11年前、5年前の調査と比較すると「家族と話をする」(80.3%→86.0%→88.0%)と「テレビを見る」(62.5%→77.8%→79.8%)が増えています。前回調査の5年前に増えた「携帯電話で話す、メールをする」(1.8%→5.5%→2.3%)は減少に転じています。テレビは見えていいけれど、携帯やメールは使わないことにしている家庭が多いようです。

2. 食事の時、家族と何を話す？

- ◆ 1位「学校で起きたできごと」(79.8%)、2位「友だちのこと」(59.8%)が突出
3位「テレビ番組やタレントのこと」(43.0%)までの順位に、学年や男女で差異はみられず

食事の時の会話の内容は、「学校で起きたできごと」(79.8%)と「友だちのこと」(59.8%)が多く、続いて「テレビ番組やタレントのこと」(43.0%)、やや差があって「クラブ活動」(25.3%)、「ニュース」(23.5%)、「スポーツ」(18.5%)、「家族や親戚のこと」(18.3%)などでした。

小学生と中学生でも、男子と女子の比較でも、トップ3は同じ順番でした。

過去調査：食卓の話題は、学校のことと友だちのことが中心

11年前、5年前と比較すると「学校で起きたできごと」(74.5%→74.5%→79.8%)と「友だちのこと」(40.3%→59.5%→59.8%)は、いずれも増加傾向にあります。

3. 誰と一緒に食べるときが楽しい？

- ◆ 一緒に食べると楽しい相手 1 位は、学年・性別・時代を問わず常に「母親」(79.3%)
- ◆ 前回大きく減った「父親」(76.8%→54.8%→64.8%)の人気も大幅に回復
5 年前に大きく増えた「友だち」(33.8%→68.3%→62.3%)は引き続き高率だがやや減少

食事を誰と一緒に食べるときが楽しいか聞いてみたところ、「母親」(79.3%)、「兄弟・姉妹」(67.8%)、「父親」(64.8%)、「友だち」(62.3%)、などが多くなっています。

小学生と中学生でも、男子と女子でも、一緒に食べると楽しい相手はいずれも「母親」がトップでした。過去の調査でも常にトップは「母親」で、その人気は不動のようです。

過去調査：「母親」と「父親」が増え、前回増えた「友だち」がやや減少

11 年間を比較すると、5 年前は減少傾向にあった「母親」(83.3%→71.5%→79.3%)や「父親」(76.8%→54.8%→64.8%) の人気が回復したのに対し、5 年前に大きく増えた「友だち」(33.8%→68.3%→62.3%) がやや減少しました。

4. 夕ごはんでは好きな料理・おかずは何？

- ◆ 1 位「ハンバーグ」(74 件)、2 位「カレー」(50 件)が不動の人気
11 年前から、子どもの好きなメニューはほとんど変わらない

家の夕ごはんでは好きな料理、おかずを一品、具体的にあげてもらったところ、「ハンバーグ」(74 件) が最も多く、以下「カレー」(50 件)、「唐揚げ」(39 件)、「ギョウザ」(26 件)、「オムライス」(23 件)、「スパゲティ、パスタ」(13 件)、「肉じゃが」(12 件) などの順となっています。

男女とも「ハンバーグ」(男子 39 件、女子 35 件) がトップです。

過去調査：いつの時代も 1 位「ハンバーグ」、2 位「カレー」が圧倒的人気

11 年前から、常に「ハンバーグ」と「カレー」がトップ 2、順位も変わらずに高い人気を保ち続けています。

順位		件数	男子	女子
1	ハンバーグ	74	39	35
2	カレー	50	26	24
3	唐揚げ	39	22	17
4	ギョウザ	26	15	11
5	オムライス	23	6	17

5. おかずとご飯は交互に食べる？

- ◆ 「おかずとご飯を交互に食べる」という子どもが大多数(82.0%)を占める
「おかずだけ先に食べる」(12.8%)、「おかずを一種類ずつ食べる」(11.0%)

食事の食べ方では、「おかずとご飯を交互に食べる」(82.0%)が多い中で、「おかずだけ先に食べる」(12.8%)、「おかずを一種類ずつ食べる」(11.0%)、「おかずから嫌いなものを選び分ける」(8.8%)、「ごはんだけ先に食べる」(3.8%)などの少数派もいます。「ごはんにふりかけをかける」という人は1割(10.5%)いました。

過去調査：11年前は「おかずとご飯を交互に食べる」が6割強(66.3%)

11年前に比べると、「おかずとご飯を交互に食べる」(66.3%→78.0%→82.0%)が大幅に増えていることが分かります。

6. 食事を残すことがある？ 残してしまったらどう思う？

- ◆ 「いつも残す」(1.3%)、「時々残す」(38.3%)などの“残すことがある”4割(39.5%)
- ◆ 残すのは「もったいない」(67.8%)、「作ってくれた人に悪い」(59.8%)が過半数

1) 食事を残すことがある？

食事を「いつも残す」(1.3%)は少ないものの、「時々残す」(38.3%)はかなり多く、合わせて4割(39.5%)が“残すことがある”と答えています。

“残すことがある”は、男子(32.5%)より女子(46.5%)に多く、中学生(33.0%)より小学生(46.0%)に多くなっています。

過去調査：「残すことがある」は11年前(48.3%)より約1割減(39.5%)

11年前と比べると、“残すことがある”(48.3%→42.5%→39.5%)は減少傾向にあり、残さず食べる子どもが増えていることが分かります。

2) 残してしまったらどう思う？

食事を残すことについては、「もったいない」(67.8%)、「作ってくれた人に悪い」(59.8%)などが過半数を占めます。「食べきれない時は仕方がない」(28.0%)、「嫌いなもの時は仕方がない」(13.8%)など、“仕方がない”という意見も少なからずみられます。

過去調査：「もったいない」「作ってくれた人に悪い」は6割程度で推移

「もったいない」(37.8%→75.0%→67.8%)、「作ってくれた人に悪い」(44.3%→63.5%→59.8%)は、いずれも5年前は大きく増えましたが、今回は少し減りました。

Ⅱ.“食育”に関する意識と実態

1. 家で食べ物や食事について守るように言われているのはどんなこと？

◆ 「好き嫌いをしない」(72.5%)と「食卓に肘をつかない」(71.8%)がトップ2

「食事中に電話やメールをしない」(34.0%→48.5%)が、前回比 15 ポイントの増加

食べ物や食事について、家で“しつけ面”から守るように言われていることは、「好き嫌いをしない」(72.5%)が最も多く、ほぼ同率で「食卓に肘をつかない」(71.8%)が続きます。

以下「食べ物を粗末にしない」(62.0%)、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(57.3%)、「口に食べ物を入れたまま話をしない」(51.3%)、「はしを正しく持つ」(50.3%)、「食事中に電話やメールをしない」(48.5%)などが上位に挙げられています。

過去調査：「好き嫌いをしない」「食卓に肘をつかない」が常に上位を争う

11年前との比較では、「好き嫌いをしない」(51.3%→66.3%→72.5%)と「食卓に肘をつかない」(43.0%→72.0%→71.8%)が増加傾向です。上位にあげられている項目の傾向は大きく変わりませんが、「食事中に電話やメールをしない」(34.0%→48.5%)が5年前に比べ15ポイントほど増えているのが目につきます。

2. 料理や食べ物、食べ方について、誰(何)から学んできた？

◆ 「母親」(93.0%)が圧倒的多数、次いで「父親」(58.8%)と“両親”から学ぶ人が多い

料理や食べ物、食べ方について、どのような人やどんな方法から学んできたかをみると、「母親」(93.0%)からが圧倒的に多く、次いで「父親」(58.8%)と“両親”から学んできた人が大多数を占めます。以下「先生」(35.8%)、「学校の栄養士」(26.5%)、「テレビ番組」(25.5%)、「きょうだい」(15.0%)が続きます。

過去調査：変動が少ない中で「父親」と「インターネット」が伸びている

5年前に比べても「母親」(91.3%→93.0%)が圧倒的に多く、次いで「父親」(55.5%→58.8%)、「先生」(36.5%→35.8%)、「学校の栄養士」(26.5%→26.5%)、「テレビ番組」(24.8%→25.5%)など、順位や割合もほとんど変動はありません。そうした中では、「インターネット」(2.0%→8.0%)が増加しているのが目を引きます。

3. 『おはし』を正しく持っている？

- ◆ おはしを「正しく持っている」子どもが、4人に3人以上(76.3%)と大多数を占める
過去の調査と比較して、「正しく持っている」(58.0%→72.5%→76.3%)が増えた

『おはし』を正しく持っているか、イラストを参照して自己判断してもらいました。その結果、「正しく持っている」という人は76.3%と4人に3人以上の割合でした。

性別では男子(77.0%)と女子(75.5%)にほとんど差はありませんが、小学生(73.0%)と中学生(79.5%)では差が開きます。なお、小学生では男子(70.0%)より女子(76.0%)が多かったのですが、中学生では女子(75.0%)と男子(84.0%)が逆転しています。

過去調査：11年前は、「正しく持っている」男子は6割未満(58.0%)だった

11年前に比べると、おはしを「正しく持っている」(58.0%→72.5%→76.3%)子どもの人数は大幅に増加しました。特に男子(49.0%→75.0%→77.0%)の伸びが目立ちますが、女子(67.0%→70.0%→75.5%)もほぼ同数に伸びてきています。

4. 食べ物や食事について、行ってきたことは？

- ◆ 「食器をならべる、料理を運ぶ」(72.3%)、「食事後の食器を運ぶ」(68.8%)は約7割
食前食後に料理や食器を運ぶ子どもは、11年前の5割前後から7割前後にまで増える

食べ物や食事について、これまで行ってきたことは、「食器をならべる、料理を運ぶ」(72.3%)が最も多く、続く「食事後の食器を運ぶ」(68.8%)も7割弱に達します。以降は半数を下回り、「食事のしたく」(41.8%)、「食品の買い物」(37.0%)、「食器を洗う」(28.8%)などが続きます。

性別では、「食器をならべる、料理を運ぶ」(男子64.0%、女子80.5%)、「食事後の食器を運ぶ」(同64.5%、73.0%)など、男子より女子のほうが参加率は高い傾向です。

過去調査：料理や食器を運ぶ子どもは増えているが、「食事のしたく」はやや減少

トップ3の順位に変動はありませんが、「食器をならべる、料理を運ぶ」(57.8%→67.0%→72.3%)、「食事後の食器を運ぶ」(49.5%→61.8%→68.8%)が増え続けているのに対し、「食事のしたく」(24.8%→49.0%→41.8%)は、今回は少し減りました。

5. お父さんは食べ物や食事のことで何かしている？

◆ 食べ物や食事のことを「何もしない」というお父さんは約2割(21.2%)

過去の調査から、子どもからみて「何もしない(33.3%→26.1%→21.2%)」は減少傾向

父親のいる子ども(386人)を対象に、食べ物や食事について父親がしていることを聞いたところ、「何もしない」という人が2割強(21.2%)いました。

残りの8割弱(78.8%)がしている内容では、「食事後の食器を運ぶ」(45.3%)がトップで、以下「食品の買い物」(40.4%)、「料理を作る」(37.8%)、「食器を洗う」(36.5%)、「食器をならべる、料理を運ぶ」(32.4%)、「なべ物やプレート料理の係」(22.8%)が続きます。

父親がしていることの数から“家事参加度”をみると、10項目中3項目以上している「高い」にランクされる父親は39.6%と4割弱でした。

過去調査：“家事参加度”が「高い」(17.7%→33.9%→39.6%)父親が増加

11年前と比較すると、子どもからみた父親の家事への参加度は大変高くなりました。項目別でも「食品の買い物」(19.7%→35.8%→40.4%)、「食事後の食器を運ぶ」(16.4%→35.8%→45.3%)、「料理を作る」(33.6%→35.5%→37.8%)となっています。該当項目数が3以上(17.7%→33.9%→39.6%)のお父さんも増えています。

Ⅲ. “食の安全性”に関する意識と実態

1. “食の安全”にどのくらい関心がある？ どんなことに関心がある？

◆ 食の安全に“関心がある”子どもが 6 割を占める

男子(54.0%)より女子(67.0%)が多く、小学生(60.0%)と中学生(61.0%)に差がない

“食の安全”にどのくらい関心があるかという質問では、「とても関心がある」(16.5%)と「まあ関心がある」(44.0%)を合わせた“関心がある”は 6 割 (60.5%) でした。

男子 (54.0%) より女子 (67.0%) が多いのに対し、小学生 (60.0%) と中学生 (61.0%) は差がありませんでした。

過去調査：食の安全に“関心がある”子どもが 11 年で 1 割近く増加

11 年前と比較すると、“関心がある”(51.5%→58.3%→60.5%) 子どもが 1 割近く増加しています。

2. ふだん“安心して食べられる”のは、どんな食べ物・食事？

◆ 安心して食べられるのは、「家の食事」(97.8%)がほぼ全員、「給食」(65.3%)で 6 割

「スナック菓子」や「ファストフード」「外で買ってきた惣菜やお弁当」は“安心”2 割前後

今回新しい設問として、ふだん“安心して食べられる”のはどんな食べ物・食事が聞いてみたところ、大多数が「家の食事」(97.8%)を挙げました。次いで「給食」(65.3%)までが過半数で、以下「外食」(33.3%)が 3 割、「スナック菓子」(23.8%)や「ファストフード」(18.5%)、「外で買ってきた惣菜やお弁当」(17.3%)は 2 割前後でした。

全般的に男子のほうが女子より高率で、「給食」(男子 70.5%、女子 60.0%)、「ファストフード」(同 23.5%、13.5%)、「外で買ってきた惣菜やお弁当」(同 21.0%、13.5%)などで差が目立ちます。

過去調査：なし

3. 食べ物や食事が“安心して食べられない”と思うのは、どんなとき？

◆ 8割強(84.3%)の子どもが“安心して食べられない”と思うときがあると回答
「家族が安心ではないと言うとき」(57.8%)、「不正・偽装などが心配なとき」(36.0%)など

今回新しい設問として、食べ物や食事が“安心して食べられない”と思うのはどんなときかを聞いてみました。「特にない・わからない」(15.8%)を除く、8割強(84.3%)が“安心して食べられない”と思うときが“ある”と答えています。

具体的項目としては、トップは「家族が安心ではないと言うとき」(57.8%)が過半数でした。以下「不正・偽装などが心配なとき」(36.0%)、「先生が安心ではないと言うとき」(32.8%)、「国産ではないとき」(27.0%)、「原材料がわからないとき」(25.0%)、「産地がはっきりしないとき」(24.5%)などが続きます。

男女とも「家族が安心ではないと言うとき」(男子 53.5%、女子 62.0%)がトップですが、「先生が安心ではないと言うとき」(同 31.5%、34.0%)などを含め、女子のほうが高率な傾向がみられます。

小学生のほうが「家族が安心ではないと言うとき」(小学生 60.5%、中学生 55.0%)や「先生が安心ではないと言うとき」(同 37.0%、28.5%)など、周りの人の影響を受けやすいようです。

過去調査：なし

IV. 学校生活における“食”と“農”に関する意識と実態

1. 給食は好き？

- ◆ 給食が「好き」な子どもが3人に2人(66.6%)、「おいしい」(63.9%)は約6割
“給食を食べている”、小学生は全員(100.0%)だが、中学生になると半減(49.5%)

学校給食の有無をみると、「給食がある」、すなわち“給食を食べている”人は小学生では全員(100.0%)ですが、中学生では半数(49.5%)に減り、全体では4人に3人(74.8%)の割合となりました。

“給食を食べている”人(299人)を対象に、その好き嫌いを聞いてみたところ、「好き」(66.6%)が3人に2人の割合でした。「好き」は男子(71.1%)が女子(62.0%)より多く、小学生では4人に3人だった「好き」(75.0%)でしたが、中学生ではほぼ半数(49.5%)に減っています。

学校給食への感想としては、「おいしい」(63.9%)、「みんなで食べると楽しい」(58.5%)、「家で食べないメニューを食べることができる」(44.1%)などが上位で、不満としては「お弁当のほうがいい」(17.4%)、「おいしくない」(12.4%)などが挙がっています。

過去調査：給食を「好き」(55.1%→72.2%→66.6%)が6～7割で推移

「給食がある」(69.0%→74.8%→74.8%)と答えた子どもの数に、大きな変化はみられません。好き嫌いでは、「好き」(55.1%→72.2%→66.6%)が6～7割で推移、感想でもトップ3は変わらずに「おいしい」「みんなで食べると楽しい」「家で食べないメニューを食べることができる」となっています。

2. 給食の好きなメニューと嫌いなメニューは？

- ◆ “好きな料理”1位「カレー」(85件)、2位「揚げパン」(50件)が突出した人気
“嫌いな料理”は「特になし」(62件)が最多、次いで「魚料理」(24件)や「サラダ」(19件)

給食における“好きな料理”では、「カレー」(85件)がトップ、次いで「揚げパン」(50件)が圧倒的な人気メニューとなっており、3位以下はやや差が開いて「唐揚げ」(13件)、「ハンバーグ」(12件)、「サラダ」(11件)、「うどん」(10件)、「キムチチャーハン」(9件)、「パン」(8件)、「ミートソーススパゲティ」(8件)などが続きます。

“嫌いな料理”では、「特になし」(62件)が多く、「魚料理」(24件)、「サラダ」(19件)、「豆が入っている料理」(15件)、「パン」(14件)、「スープ」(12件)、「混ぜご飯」(11件)、「ビーンズサラダ」(8件)などが続いています。

過去調査：いつの時代も常に「カレー」が圧倒的な一番人気

5年前は「カレー」(66件)、「揚げパン」(42件)がトップ2、11年前は「カレーライス」(51件)、「ラーメン」(20件)がトップ2でした。

3. 給食に地元（自分が住んでいる地域）の食べ物や材料が出てくる？

◆ 給食に地元の食べ物や材料が「出る」(47.5%)、「分からない」(52.2%)

給食に地元（自分が住んでいる地域）の食べ物や材料が出てくるか聞いてみたところ、「わからない」（52.2%）という人が半数強を占めますが、5割弱（47.5%）は「出る」と答え、過去調査と比較すると大幅に増加しました。小学生（48.0%）と中学生（46.5%）に差はみられません。

過去調査：地元の食材が「出る」(28.6%→39.5%→47.5%)が大幅に増加

11年前と比べると、地元の食材が「出る」(28.6%→39.5%→47.5%)と、給食における地産地消が大幅に増えていることが分かります。

4. お米や野菜を育てた経験は？

◆ 学校でお米や野菜を育てたことが「ある」(84.5%)が大多数を占める

過去調査を通じて、お米や野菜を育てたことが「ある」(62.3%→76.8%→84.5%)が増加

1) お米や野菜を育てた経験は？

学校でお米や野菜を育てたことがあるか聞いてみたところ、「ある」(84.5%)が圧倒的多数を占め、お米や野菜を育てることを通じた食育が普遍化していることが分かります。

過去調査：お米や野菜を育てたことが「ある」(62.3%→76.8%→84.5%)増加

学校でお米や野菜を育てたことが「ある」(62.3%→76.8%→84.5%)で、この11年間で大幅に増えたことが分かります。

2) 育てたものは？

学校で育てたものは「米」(184件)が圧倒的に多く、以下「トマト」(99件)、「ゴーヤ」(42件)、などが続きます。

3) お米や野菜を育ててみたい？

学校でお米や野菜を育てた経験が“ない”人(62人)に、育ててみたいと思うか聞いてみたところ、「思う」(56.5%)という人が過半数を占めました。

過去調査：育ててみたいと「思う」(43.0%→45.2%→56.5%)が過半数に

育ててみたいと「思う」(43.0%→45.2%→56.5%)人も増加傾向で、今回の調査では初めて半数を超えました。

5. お米や野菜を育てた感想は？

◆ 「楽しい」(55.6%)が過半数、「面白い」(34.6%)は約3割

「たいへん」(50.6%)や「むずかしい」(49.4%)など、農業の大変さや難しさも学ぶ

学校でお米や野菜を育てたことが「ある」という人(338人)に、育ててみてどう思ったか聞いてみたところ、「楽しい」(55.6%)や「面白い」(34.6%)と並んで、「たいへん」(50.6%)や「むずかしい」(49.4%)などの意見も多く、農業の大変さや難しさを知るいい機会になっているようです。

「楽しい」(男子 53.0%、女子 58.1%)、「面白い」(同 31.9%、37.2%)が男子より女子が高い一方で、「たいへん」も男子(41.0%)より女子(59.9%)のほうが19ポイントほど高くなっています。

過去調査：「楽しい」(37.3%→57.7%→55.6%)が常にトップ

育ててみた感想は、「楽しい」(37.3%→57.7%→55.6%)が常にトップなのは変わりません。

V. 過去の調査

農林中央金庫では、平成 15 年度から「食」に関する調査を実施してきました。

今回の調査は、2005 年の「親から継ぐ『食』、育てる『食』」、2011 年の「第 2 回子どもの食生活の意識と実態調査」に続く第 3 回調査として実施されたものです。

本資料は今回の調査内容のダイジェストです。詳細につきましては、過去の調査報告書も含め、当金庫のホームページ (<http://www.nochubank.or.jp/contribution/research.html>) に掲載されていますので、ご参照ください。

これまでの食に関する調査

発表年月	調査タイトル	調査対象
2015 年 4 月	第 3 回『世代をつなぐ食』その実態と意識	東京近郊の 30 代から 50 代の母親
2014 年 4 月	第 2 回現代の独身 20 代の食生活・食の安全への意識	東京近郊の 20 代の独身男女
2013 年 4 月	第 2 回現代の父親の食生活、家族で育む『食』	東京近郊の 30 代、40 代の父親
2012 年 4 月	第 2 回現代高校生の食生活、意識と実態調査	東京近郊の高校生
2011 年 6 月	第 2 回子どもの食生活の意識と実態調査	東京近郊の小学 4 年生～中学 3 年生
2010 年 4 月	第 2 回『世代をつなぐ食』その実態と意識	東京近郊の 30～50 代の母親
2008 年 3 月	現代の独身 20 代の食生活・食の安全への意識	東京近郊の 20 代の独身男女
2007 年 3 月	現代の父親の食生活、家族で育む『食』	東京近郊の 30 代、40 代の父親
2006 年 3 月	現代高校生の食生活、家族で育む『食』	東京近郊の高校生
2005 年 2 月	親から継ぐ『食』、育てる『食』	小学校 4 年生～中学校 3 年生
2004 年 2 月	『世代をつなぐ食』その実態と意識	子どもを持つ 30～59 歳の主婦

< 本件に関するご照会先 >

農林中央金庫

広報企画室：田口、三上

〒100-8420 東京都千代田区有楽町 1-13-2

DN タワー 21 (第一・農中ビル)

TEL. 03-5222-2017